

# うどんの命粉のプロ

讃岐うどんは香川産の小麦を県産小麦をつくるプロジェクトに連携して加わり、粉に求められる特性を助言したり、試作品の製粉などに協力したりした。

香川農産試験場が主導する「うどんの命粉」として、香川産の小麦を県産小麦をつくるプロジェクトに連携して加わり、粉に求められる特性を助言したり、試作品の製粉などに協力したりした。



吉原良一社長(手前右)と従業員。小麦をひいて粉にする「ローレル機」が並ぶ製粉工場

として最も古い1902年に創業した。現在、讃岐うどん用の小麦粉が売り上げの約7割を占めている。「常に新しい価値を創造し、社会に提供していく」。同社の企業理念にはこうある。

07年、小麦1粒を約50カ所の部位に選別し、讃岐うどんなど用途に適した小麦粉をつくる技術を全国で初めて開発した。「ハイブリッド小麦粉」と名付けて売り出している。4代目の吉原良一社長(53)は「でんぷんやたんぱく質の割合は小麦の部位ごとに違う。どの部位をどれだけ配合するかによって食感やうまみ、色などを自在に変えられるんです」と力を込める。

創業時、小麦は国に直接統制されていた。このため、同社は国の指定工場として麦を国から購入し、精白して国に再び販売していた。戦地に赴く兵隊の食料用として陸軍や海軍などに麦飯用の押し麦を納入していたため、収入は安定していたという。

## 量から質へ独自の道を



吉原食糧が使用する讃岐うどん用小麦。特徴を生かして粉を作る＝いずれも香川県坂出市林田町

だが、戦後米の流通量が増え、主力の押し麦の需要が低下した。生産の中心を押し麦から小麦粉にシフトし、終戦から2年後の47年に製粉工場を設立した。

54年、小麦粉の直接統制が廃止された。国から購入し、国に販売すれば良いという状況が一変し、民間の販路開拓が急務になった。香川の「お国事情」から、必然的に主な顧客は讃岐うどんの店や製めん業者に向けた。経営の行き詰まった製粉会社の廃業が相次ぐ中、顧客の信頼を得るため、買手の要望に応える小麦粉をいつでも大量に卸せるよう増産体制を確立する必要があった。

69年に日産113トンの設備を増強し、85年には日産150トンを大量製粉する現在の工場を建てた。吉原社長は

「さぬきの夢2000」が誕生したのは、いわば「時代の要請」があったからといえる。現在、さぬきの夢2000の生産量は着実に増えている。

は、専務を務めていた父・義男さんが昼夜を問わず工場に詰め、従業員と汗を流す姿が記憶に残る。「当時は質より量が求められ、とにかく仕事、増産増産。うどん店などとのつながりを強め、会社を存続させてきた」と吉原社長は振り返る。

吉原社長は85年、東京の大手電機会社を辞めて帰郷し、吉原食糧に入社した。そのとき、地元讃岐うどんの変化に違和感を抱いた。ほとんどの店で、豪州産の小麦粉ASW(オーストラリア・スタンダード・ホワイト)が原料に使われていたからだ。

ASWは安定した収穫量が期待できるほか、めんが白っぽい色になり、強いコシや弾力もある。一方、香川産小麦を使っためんはくすんだ色で切れやすく、弾力や粘りも少ないためにうどん店のニーズに合わなくなっていた。

同社が参加し、香川産の「さぬきの夢2000」が誕生したのは、いわば「時代の要請」があったからといえる。現在、さぬきの夢2000の生産量は着実に増えている。

## 百年企業

@四国

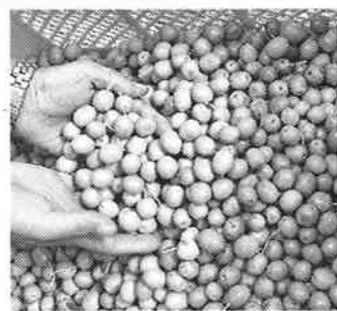
### 吉原食糧(香川県坂出市)

吉原食糧(香川県坂出市林田町)香川産のうどん用小麦「さぬきの夢2000」などを使った小麦粉の開発と製造、販売を手がける。売り上げの約7割はうどん用の小麦粉だがパンや菓子用も扱う。個人向けにも販売している。従業員は30人。資本金4千万円、年商約15億円。

### これまでの歩み

- 1902年 香川県坂出市に精麦工場を開設し創業。全国や朝鮮半島向け販売開始
- 40年 精麦工場が農林省や陸・海軍、航空隊の指定工場となる
- 47年 坂出市に製粉工場を開設
- 50年 有限会社吉原精麦所を設立
- 91年 株式会社に組織変更
- 99年 「さぬきの夢2000」小麦の開発プロジェクトに参加
- 2007年 オーストラリア産と県産小麦の1粒を約50もの部位にひき分け、掛け合わせた「ハイブリッド小麦粉」を発表
- 08年 ハイブリッド小麦粉シリーズが08年度食品産業技術功労賞を受賞

(林亜季)



オリブの生産量日本一を誇る瀬戸内海・小豆島(香川県)で実の収穫作業が本格化している。この時期に島内で

## 香川・小豆島のオリブ 実の収穫が本格化

収穫されるオリブの実は、水洗いを繰り返した後に塩水に漬けて作る「新漬け」用に

10月10日の解禁日から販売予定だ。オリブを使ったオイルや化粧品などの生産・販売を手がける同県小豆島町池田の井上誠耕園では4畝の畑で約2千本のオリブを栽培している。同園によると、今夏の猛暑と小雨で生育状況が心配さ

れたが質のいい実ができたという写真。県は今後もオリブの需要が増える予想しており、供給態勢を強化するため、今年度「オリブ生産拡大推進事業」として1500万円の予算を組む。新規に栽培を始める人の苗木購入費や灌漑設

備などへの整備費用を進めるためだ。栽培から収穫までの作業手順を指導し、業者とのマッチングなども支援する。県の担当者は「オリブは県にとって貴重な財産。大切に育て、守っていききたい」と話す。

## 情報ナビ

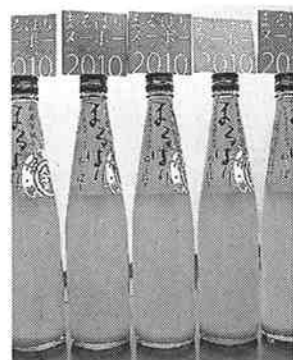
### ◆南海フェリー、秋の割引

徳島港と和歌山港を結ぶ南海フェリーは31日まで、秋の3大割引キャンペーンを実施している。内容は、①土日祝日に乗用車及び同乗者運賃を半額にする②全日の自転車運賃を無料(旅客運賃は必要)にする③平日に三世代(祖父母、子夫婦、孫など)の各世代1人以上が同時に車両で利用する場合、乗用車及び同乗者運賃を半額にする――の3点。問い合わせは徳島営業所(088・636・0750)へ。

### ◆新高梨の果汁入りリキュール

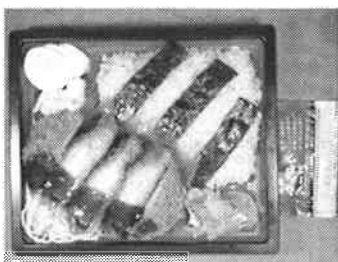
高知県香南市赤岡町の「高木酒造」は、同県特産の新高梨の果汁を用いた日本酒ベースのリキュール「まるはりヌーボー」＝写真＝を今月30日から期間限定で発売する。

梨果汁が約50%入っており、梨の風味が生きた甘口のお酒という。アルコール度数は8%。1本500ミリリットル入りで希望小売価格は1350円(税込み)。問い合わせは同酒造(0887・55・1800)へ。



### ◆阪神タイガースとコラボ商品

コンビニ大手のファミリーマート(東京)は四国4県と岡山県の店舗で、プロ野球・阪神タイガースとのコラボ商品を販売している。



マートン選手の名前と語呂合わせした「ファミリーマートンカツ弁当」(税込み498円)＝写真＝と、「ファミリーマートンカツおむすび」(同128円)。弁当は阪神タイガースをイメージして、黄色く仕立てたご飯と黒いノリでしま模様。おにぎりは包装にマートン選手の顔写真が印刷されている。

### ◆ゆずポン酢しょうゆを発売

香川県東かがわ市のしょうゆ醸造元かめ781(0879・33・9555)が中橋造酢